



関西大学 学長
芝井 敬司

関西法律学校を前身とする関西大学は、「学の実化」すなわち「学理と実際の調和」を教育理念に実践的なカリキュラムによって真に有用な人材の育成に力を注ぎ、その中から多くの卒業生が輩出しました。現在では大阪府内に4つのキャンパスを有し、13学部、13研究科、3専門職大学院、1留学生別科に3万人を超える学生と、8つの併設校を擁する総合大学に成長を遂げました。

昨年、創立130周年を迎えるにあたり、次の20年のさらなる充実・発展のため、学園の理念に立ち返り、どのような人材を育成するのか、どのような学園をめざすのかを全構成員が考え、150周年に向けた指針として、「Kandai Vision 150」を策定しました。「Kandai Vision 150」の中では、「研究の将来像」に関して「学の真価を問われる時代に、関西大学はどんな知を提示できるか」、また「社会貢献の将来像」に関して「社会貢献のあり方において、『関大らしさ』はどこにあるか」を問いかけ、将来像を提示しています。

このたび、2016(平成28)年度の文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」に選定された「『人に届く』関大メディカルポリマーによる未来医療の創出」事業は、多様で独創的・革新的な研究を志向し、世界レベルの研究の場を創出していく、まさに本学の知を提示する舞台となると考えます。

関西大学は、バイオマテリアル分野の研究者数において、日本の大学では最大級の規模を持ち、一大研究拠点となっています。こういった背景から、2003年に大阪医科大学と学術交流および医工連携に関する協定を取り交わすとともに、2004年には先端科学技術推進機構内に医工薬連携研究センターを開設し、連携を強化してきました。加えて2012年からは大阪薬科大学を含む三大学での「医工薬連携研究交流会」を定期的で開催し、医療の基盤を支える取組を推進しています。

今回のプロジェクトには、「関大らしさ」が色濃く反映しています。本学の材料化学者(化学生命工学部)と機械工学者(システム理工学部)、そして大阪医科大学の臨床医の先生方との「医工連携」を強力に行い、「関大メディカルポリマー」の取組を通じて、日本そして世界の「人に届く」未来医療の創出をめざします。